

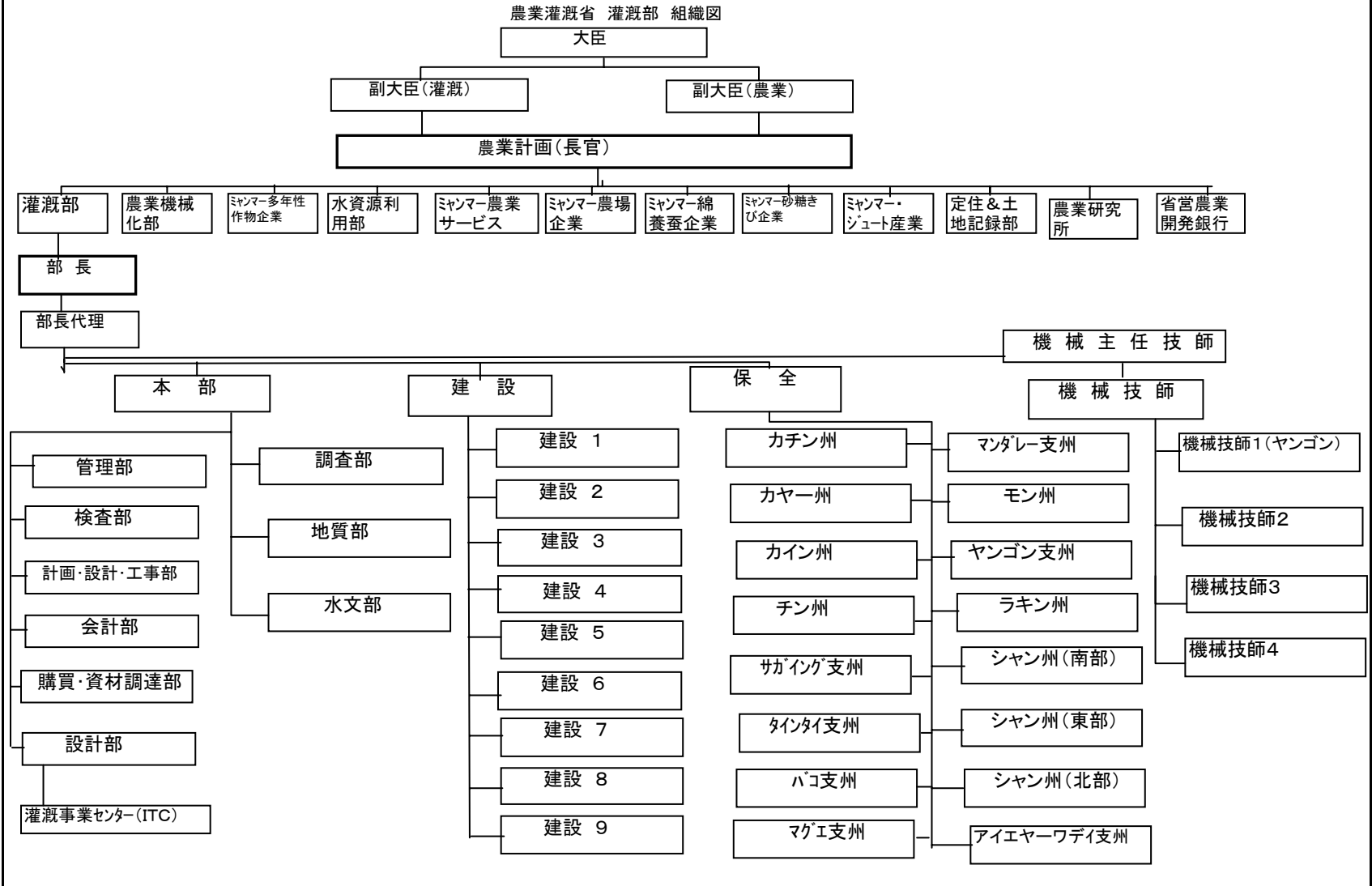
カントリーレポート

1.研修員に関する情報

1/4頁

氏名（フルネーム）	HTAR HTAR WIN		国 名	ミャンマー
連絡先	Fax: 95-052-21975 Email: ITCBAGO@mptmail.net.mm			
最終学歴	ラングーン工科大学			
大学または大学院での専攻分野	土木工学			
論文のタイトル	2階の建物の構造的設計			
所 属 組 織	名 称	農業灌漑省		
	役割	ミャンマーは農業国であり、ゆえに全国土の経済的発展は農業開発のセクターに依存している。		
	人員数	9 9 6 8 6		
組織内の部署	名 称	灌漑部門		
	職務内容	国内唯一の、全ての灌漑排水・洪水防止事業および施設の計画、設計、建設および維持保全を担当する部門。		
	人員数	2 0 3 1 3		
研修員の職務内容	ミャンマーの全ての種類の灌漑水資源開発および水管理に関する研修と環境影響評価（E I A）に関する業務を主に担当。その他は、HTEINKANGYI村のウォーター・ロギング問題を担当。			
組 織 図	(別添 組織図参照)			
職 歴	年から	年まで	ポスト	組 織 名 称
	1989	1995	インストラクター	教育省政府系技術研究所
	1998. 10	2002. 4	スタッフ・オフィサー エンジニア（土木）	灌漑技術センター 灌漑部門

組織図



2. 管轄地域の概要

国家規模のプロジェクトを担当している研修員は、国全体の情報を示すこと。ある特定の地域を担当している研修員はその地域の情報を記すこと。それぞれの情報について、データおよび統計の採取された年度を付記すること。

項 目		情 報								年 度
国または管轄地域名		ミャンマー中央部乾燥地域(マンダレー、サガイング、マグエ)								
人 口		1 6 百万人								2000
気 候		平均気温	27℃	最高気温	43℃	最低気温	5℃			2000
年間降水量		500 mm								2000
面 積		176, 470 km ²								2000
土地利用状況 (%)		耕地	27%	畜産農 場・牧場	17%	森林	32%	その他	24%	2000
灌漑農地面積		8, 094 km ²								2000
年間淡水取水量	総量 (km ³)	4. 82km ³								1995
	水資源総量に 対する比率 (%)	1%								1995
	1人当りの量 (m ³)	301. 5 m3								1995
利水の内訳	生活用水	地表水 4. 9 %				地下水 2. 1 %				1995
	農業用水	地表水 62. 6 %				地下水 27. 4 %				1995
	工業用水	地表水 2. 1 %				地下水 0. 9 %				1995
産業別人口比率 (%)		第1次 産業	10%	第2次 産業	7%	第3次 産業	2%			2000
主要農業生産物 (トップ3の生産物 名と生産高)		ランキング	生産物名			生産高				
		第1位	米			3. 01×1 0 6ton			2000	
		第2位	小麦			7 5 × 1 0 3ton			2000	
		第3位	油脂作物			7 4 × 1 0 3ton			2000	

<3. 乾燥地・半乾燥地における灌漑水資源の開発と環境評価に関する問題点と対策>

3-1 問題点：

● EIA に関連して：

マンダレーの Myintha 町でウオーター・ロギングのエリアがあり、問題になっている。特に Hteinkangyi という、その乾燥地の中央にある村が問題の地域。年間降雨量は 30 インチ (762mm)。1 年中で最も寒い 1 月の平均気温 12.6℃。最も暑い 4 月の平均気温は 38℃。このエリアには、キングダ・ダムの左岸の用水路幹線があり、農業用水としてキングダ左岸の幹線水路 D Y-3 (別添地図 Annex-8 参照) から取水している。ラボの分析結果によると、この水路の水質は作物の栽培に適している。

キングダ左岸幹線水路から取水する以前 (1988~'89 年まで) は、豆類、胡麻、綿が栽培されていた。通水後、水田による稲作が開始された。3 年間受水の後、ウオーター・ロギング・エリアが見られるようになった (1991 年~'92 年)。現在のウオーターロギング・エリアは、1000 エーカー (404.7ha) 近い。→この問題により、このエリアの生きとし生けるものすべて (人、動植物等) が被害をこうむっている (Annex-9 写真参照)。

このエリアの現象について考えられる原因は、

- 1) 村の位置 (標高)
- 2) キングダ左岸幹線水路からの水の浸出

キングダ左岸幹線水路系には、適切な排水池施設がない。Kathaung Myunn (地表の古い排水施設) は排水路として使われている (Annex-8 地図参照)。現在では、この排水路は完全に壊れ藪だらけになっている (Annex-9 写真参照)。

3-2. 対策

- ゆえに、第 1 にこの古い地表排水施設を改善しなければならない。
- 第 2 に、水路からの水の浸出量をチェックしなければならない。→もし、浸出量が非常に高ければ、粘度で水路にライニングを施す必要がある。
→地表排水施設を改善しても、まだウオーターロギングがなくならなければ、さらに、その問題のエリアのキャッチ・ドレーンを考慮しなければならない。

<4. 研修員の研修に対するリクエスト>

4.1 乾燥地・半乾燥地の灌漑水資源について：

私は、乾燥地・半乾燥地における新しい灌漑システムと灌漑水資源についての進んだ技術を学びたい。

また、日本の灌漑システムのうち成功した事例と効率的な灌漑水管理システムについて、講義、実習、見学研修を通して学びたい。

4.1 持続的開発のための E.I.A (環境影響評価) について：

E.I.A は私たちには新しい情報である。私の勤務する ITC (灌漑技術セクター) は、2002 年 3 月に E.I.A の短期専門家を招き、E.I.A の導入を受けた。私は日本でさらに E.I.A について学びたい。さらに講義と見学を通して、日本および他の国々の環境問題について学び、いかにしてそれらの問題を解決したらよいかを学びたい。